

< 霊障病 >

以下奥山医師の本を要約したものです

1. 【はじめに】
2. 【これは霊障病かな？と疑うべきポイントはここ】
3. 【私の霊障病の診察法】（どうやって見極めているのか）
4. 【霊障病とまぎらわしい病】
5. 【現代医療では対処できない霊障病の治し方】
6. 【奥山医院独自の霊障治療のメソッド】
7. 【霊障予防】
8. 【霊障Q&A】
（補足①）小栗医師の書籍より
（補足②）橋本医師の書籍より

1. 【はじめに】

◆日本人には何かが憑いている

「スリランカの悪魔祓い」を書かれた上田紀行さんは、既に30年前に「日本人には何かが憑いている」と指摘されています。私も、実は日本人は憑依されやすい体質だと感じています。

その第一の原因は、**喜怒哀楽の表現が下手**なことです。感情を抑え込んでいると、心の換気が悪くなります。動物霊は暗い気持ち、ジメジメしたところが大好きです。いつもうつむきかげんでいると、背後からソツと忍び寄ってきた動物霊に簡単に憑依されてしまいます。

日本人は喜怒哀楽の表現が下手くそな上に、近年、忖度が強く求められるようになり、身体にも心にも押し殺された感情の毒が充満している人たちが増えました。

霊障病のワクチンはありませんが、**喜怒哀楽の感情を発散すること**で、霊障病を予防することはできます。歌を歌う。運動する。おしゃべりする。いつも鼻歌を歌っている人、いつも階段を使っている人、ペットやTVにしゃべりかけている人は霊障病になりません。

昔ながらの祭りや年中行事は、喜怒哀楽の発散の場でもあり、この世と霊界のバランスを保つ一翼を担っていました。それを現代人は少子高齢化や騒音問題、人々の閉じこもり化などでおろそかにしてしまいました。

◆霊障病は、主に**精神症状**で現れるタイプと**肉体的な症状**を主として現れるタイプがある

霊障の代表的症状の中で、目つきが変わる・倦怠感・悪夢・ヒステリー・トラブル頻発・ギャンブルや買い物依存・自殺願望・自己嫌悪感・異性とのトラブル・アブノーマルな性的嗜好・不幸願望・飲酒トラブルなどが精神症状タイプになります（霊が憑いていると感じる場合でも解離性人格障害やヒステリーの可能性もある）。

肉体的な症状は、難治性肩こり・腰痛・頭痛・耳鳴り・めまいが挙げられますが、実はガン、難治奇病、認知症、リウマチ、不妊症なども肉体的な霊障病のことがあります。

仏教医学でもあるチベット医学では、今生や前世のカルマと捉え、今生での懺悔と積徳を求めています。

◆まずは**食養生&生活養生**から始める

どんな人が霊障病になりやすいのでしょうか？

霊障病になりやすい人は、**波動が低く&汚れた生活**をしています。

自然医学では免疫力&自然治癒力を重視しますが、霊障医学では**生氣**が大切です。

生氣の大きさと強さは、気血の美しさと清らかさ・慈愛・生きがいで決まります。

霊障医学と自然医学は同じものと言ってよいほど似通っています。

自然医学は**心身**を、霊障医学は**心身魂**を診ています。食養生は自然医学の「まずやるべきこと」ですが、霊障医学でも、まずやるべきことは食養生からだと言えます。**食養生をしない限り、霊障病のエネルギー源である冷えと邪気の供給を止めることができない**からです。

2. 【これは霊障病かな？と疑うべきポイントはここ】

霊障病に代表的症状はありませんが、これは霊障病かな？と疑うポイントはいくつかあります。

①**どんな治療にも反応しない難治性の病**

これは高血圧や糖尿病の患者さんでよく見かけます。

霊障は高血圧や糖尿病の病そのものに取りつくのではなく、**患者さんが食養生や生活養生ができないように、様々な手を使って邪魔をする形**で霊障します。

「なんでこんな簡単なこともできないの？」「なんででしょうかねえ・・・」

なぜ&なぜで八方塞がりに陥った時には、霊障病でないかしら？と疑ってみましょう。

②**極端に良くなったり悪くなったりを短期間に繰り返す病**

< 霊障病 >

③ありえない（説明のつかない）症状の変化をみせる病

西洋医学の教科書的には理解不能の起こり方をします。そんなことはありえない！ということばかりが起こるのが霊障病の特徴です。

④家系上で代々ある年齢になると現れる病

⑤女性の病が男性に、男性の病が女性に出る場合

3.【私の霊障病の診察法】（どうやって見極めているのか）

診察時にぞくぞくするような邪気を感じるのは軽度～中度の霊障です。

重度の霊障になると患者さんの心と魂に霊障が沈み込んでしまっているの、こちらから意識を向けて霊障の波動を感じ取らないと探り当てられません。

軽度の霊障は、患者さんの表層である身体に取り憑き、軽度の症状（風邪、関節痛、頭痛、胃痛、めまい、眼精疲労、不妊症など）を引き起こしながら、患者さんの心に霊障の種を差し込みます。

やがて心の霊障が発芽して育っていくと、**中度の霊障症状**（肺炎、関節変形、片頭痛、胃潰瘍、メニエル、白内障や緑内障、血の道症など）を起こしながら、魂に霊障の種を宿します。魂に霊障が育つと心にも霊障の症状が現れて、心身症や精神病がどんどんと悪化し、最後は寝たきりや廃人生活に至ります。

身体の症状は、ガンや関節拘縮、難聴、視力喪失などの重症に至りますが、中には身体症状が消えてしまうこともあります。これは病が表出していない「健康体」のようですが、元気さも若さも失われてしまい、目に光がない、生気のないゾンビのような状態になってしまいます。私が患者さんが霊障病かどうかを見極めるためには・・・

①まずは自然医学にかなった生活をしているかどうか？を尋ねます

食養生&生活養生を色々と問診しながら、波動が下がるようなこと、波動が汚れるようなことをしていないかをチェックします。**食養生&生活養生上での問題を改善しないと**、いくら除霊して霊障病を治しても、すぐに霊障を繰り返してしまいます。

②安保徹先生の自律神経免疫論で自律神経の状態の免疫力&自然治癒力をチェックします

自律神経系が正常範囲内にあるのに交感神経系・副交感神経系のひどい症状がある場合、霊障病を疑います。

③華佗五診の有無を診ます

霊障は**望診、特に顔望診に出やすい**のですが、3分診療では分かりません。

脈診・舌診・腹診では霊障は分からないことが多いですが、**矛盾だらけで弁証しきれない証**を診た時には霊障病も鑑別診断に入れておきます。

私は軽中度の霊障なら、診察しながら**華佗気功**と**古代鍼**で除霊開放してしまいます。

重度の霊障の場合には、**華佗刺絡気功**を用いて**悪血**や**悪邪気**を**祓う**ことが必要になります。

④チベット尿診で霊障の有無を診ます

チベット医学の診察の特徴は、**脈診**と**尿診**（参考書籍⑤⑥）を重要視していることです。特に尿診は素晴らしい波動医学診断法です。このチベット尿診では、**鬼神に憑依されているかどうか**も分かります。

患者さんが排尿した尿を一晚、一切手を触れることなく置いておきます。鬼神に憑依されていると何らかの模様が尿に現れてきます。尿を入れた容器を亀の甲羅に見立てて、模様が現れた甲羅の位置から、どんな種類の鬼神が憑依しているかを判断します。

南は亀の頭で父方の祖先にまつわる鬼神です。北の亀のしっぽは子供と孫に関わる鬼神です。その他、病害の源である天衆（自分の信仰する神谷守護神）の鬼神、人間に関わる鬼神、墓地の鬼神、外部の畑に住む鬼神、母方の祖先にまつわる鬼神、自分自身が原因の鬼神を亀の甲羅の位置で見分けます。

「尿は鏡のようなものです。鏡が姿を反映するように、尿もまた全ての病を映し出します」

チベット医学の尿診の極意とはこれです。

⑤光の前世療法で過去生由来の霊障病を除霊します

華佗刺絡気功を繰り返しても治らない霊障病の場合には、光の前世療法での霊障治療をお勧めしています。

光との対話では大きな光（神様、守護神、ご先祖様、サムシンググレートなど）に

◎これは鬼神による病なのか？

◎鬼神は何を求めているのか？

◎どうすれば鬼神病を治すことができるのか？ を尋ねます。

チベット医学では鬼神の病の治療は難しいとされていますが、光の前世療法を用いると、容易に光との対話を通じて霊障病の原因である鬼神と直接つながり、鬼神の言い分を聞きながら病平癒の為の糸口を探ることができます。多くの場合、鬼神が生まれた過去生を見るだけで、鬼神は平癒されて光へ戻っていくことができます。

4.【霊障病とまぎらわしい病】

◎精神病は最もよく似ている

霊障病と最も似ているのは**精神病**です。霊障病に出会ったとき、まず誰もが最初は「それは精神病でしょう？」と思われま。しかし、霊障を精神疾患として治療してしまった場合はどうなるのでしょうか・・・

- ①治療すればするほど**悪化**します
- ②向精神薬が効かず**多剤投与**になります
- ③向精神薬を服用すると、ますます暴れる等の**予期せぬ反応**が出ます
- ④精神科医・カウンセラー・看護師・家族に**霊障が乗り移る危険性**もあります

内科での生活習慣病への多剤投与、整形外科の消炎鎮痛剤の多剤投与、漢方医の漢方薬の多剤投与なども霊障病を悪化させてしまいます。外科では、自然に治癒するはずの創部が感染したり悪化したりして再手術を繰り返す場合は霊障かもしれません。

そして、霊障が精神に宿った場合、**他人を責めたり攻撃すること**が多いようです。このような攻撃的な霊障は、今生の呪詛、前世のカルマや呪詛に召喚された霊障であることが多く、その治療も予防も中々難しいものがあります。患者さんの自我がしっかりと確立されていれば、前世のカルマや呪詛を今生で被ることはありませんが、依存傾向の強い方や甘やかされて育った方々には、簡単に呪詛の霊障が取り憑いてしまいます。

以下のような方々は霊障との鑑別はとて難しいばかりでなく、**自然医学を主とした霊障治療の効果はあまり期待できません**。

- ・向精神薬や睡眠薬、精神安定剤などを服用している
- ・生活習慣病の薬や消炎鎮痛剤を服用している
- ・ワクチンをいつも注射している
- ・グルテン、ジャンクフード、コンビニ食が大好き
- ・スイーツ大好き人間
- ・電磁波など気にしていない
- ・輸血をしたことがある
- ・栄養ドリンクやエナジードリンクを愛用している
- ・芸能ニュースとグルメ番組が大好き
- ・夜型生活バンザイ（早寝早起きは超苦手）
- ・赤ちゃん&子供の声をうるさく感じる
- ・パワースポットや心霊スポットが大好き
- ・待つのは苦手、人より早く、高く、大きく、多くが好き

自然医学は免疫力&自然治癒力を高めることで治癒効果を得ます。これらの項目はどれも免疫力&自然治癒力を低下させるだけでなく、霊障を呼び込み、霊障病をどんどん悪化させるものばかりです。

免疫力&自然治癒力が低下すると、汚れた低い波動になってしまい、万病にかかりやすくなるだけでなく、あらゆる運気が低迷します。

汚れた低い波動の人には、動物霊たちが集まってきては次々に憑依していきます（食養生や生活養生をしなかったから引き寄せるのです。その逆ではありません）。

◎ガンや難病に憑依する霊障（心の奥深くに宿る霊障）

霊障は自らをカモフラージュするために、**心の表面上を明るく陽気で笑顔いっぱい**にしてくれます。外見上も日常生活上も、心の疲弊に誰も気づいてくれません。患者さん本人でさえ、いつしか自分の心の自傷が見えなくなってしまう。霊障はキノコが菌糸を伸ばすようにジワジワと身体の中に広がっていきます。そして免疫力と自然治癒力が衰える時を狙って、身体中の様々な場所に病を起こします。このように心の奥深くに宿る霊障が全身に広がった病は、**鎮痛剤の効きにくい痛みと関節のこわばりや筋肉の萎縮**となって現れてきます。

変性疾患や免疫疾患はその遺伝性も問われますが、**家族ぐるみ**で同じ変性疾患や免疫疾患になってしまったときには、心の奥に霊障が宿っていないかを探ってみることも必要でしょう。

5.【現代医療では対処できない霊障病の治し方】

軽度～中度の霊障治療には、**免疫力&自然治癒力の回復と生気の回復が必要不可欠**です。霊障を繰り返す方々は、免疫力&自然治癒力が低いままです。

イライラや攻撃的、排他的で支配的な気持ちを手放せないと、交感神経の過緊張状態は改善してきません。

依存的で逃避的で無反省なクセから脱せないと、副交感神経の過緊張状態がいつまでも続きます。**過度の我欲とエゴも免疫力&自然治癒力の回復を妨げます**。

自律神経のバランスを取り戻すと、免疫力&自然治癒力も生気も回復してきて、霊障を排除してくれます。

肉体的な病や心の病の時はもちろんのこと、過労や心的トラウマ、過食やお酒の飲み過ぎが続いた時、スイーツの食べ過ぎでも霊障を招いてしまいます。

霊障治療は、これまで述べてきた**自律神経のバランスを回復することから**始めていきます。食養生と生活養生ができれば、除霊やお祓いの効果も高まります。**まずは食養生から**見ていきましょう。

①少食療法（消化に使われるエネルギーは膨大）

1日1色の少食療法にすると、1日の中で21時間以上もデトックスが続きます。

夕食のみの1日1食にすると、朝からずっと意識明瞭で過ごせます。肉体的にも体力&気力充実が続きます。いくら霊障しようとしても、心身魂にスキがありません。

霊障治療のための食養生の際には、霊障の患者さんだけに1日1食・玄米採食を強いるのではなく、**ご家族全員で頑張らなくて頂かない**と治療効果は期待できません。

◎霊障治療では肉食はNG

霊障治療に関しては、肉食はNGです。やはり動物霊や死霊との関係から避けた方がよいと思います。

霊障は、**勘が鋭い・感性が豊か・スピリチュアルな能力が高い方**に多いように思われます。食肉にこもった思いを敏感にキャッチすることで、動物霊や霊障を引き寄せてしまうのです。

逆に言えば、糖尿病などで糖質制限食を始めてみたら、かえって糖尿病の症状がひどくなった場合は、霊障の可能性も考えてみた方がよいでしょう。

◎発酵食品、海藻食、自然塩がいい

玄米採食をされる際には、発酵食品や海藻食を中心にした精進料理風もお勧めです。免疫力&自然治癒力の回復に大いに役立ってくれますし、霊障予防にもなります。

自然塩をたっぷり摂りましょう。特に藻塩がお勧めです。塩は清めの効果があるだけでなく、免疫力&自然治癒力を高めてくれます。霊障以外では岩塩や海洋塩も良いのですが、霊障の場合は**藻塩**をお勧めします。岩塩には土性が強く出ます。海洋塩には水性が強く出ます。藻塩は木性と火性と水性を兼ねています。

果物は良いですが、砂糖（黒砂糖でも）は控えめにしましょう。

◎タバコを吸わない

タバコはダメです。今のタバコは**砂糖類と化学添加物だらけ**です。肺が汚れると、肺と繋がっている腸内フローラも弱ります。悪玉腸内細菌が増えるので、免疫力&自然治癒力は低下します。

タバコを吸いながら霊障を治したい？それは強い依存が根本にあるので、とても難しいです。どこか除霊してくれる宗教におすがりするしかないでしょう。

◎その他

動物は火を怖がります。**火を通した食材を摂ることで**、動物霊の憑依を避けることができます。

ニンニク、ショウガ、唐辛子、梅干しは霊障治療を助けてくれます。どれも昔から悪魔封じに使われてきた食材です。大量に摂ると腸内フローラのバランスが崩れますが、少量を毎日摂ると腸も元気になり、冷えも改善して免疫力&自然治癒力も回復してきます。

乳製品は避けましょう。特にアジア人は遺伝的に乳糖不耐性が多いので、腸内フローラを守る意味でも乳製品は避けた方がよいでしょう。

断食療法は霊障には体力面で不向きでしょう。もともと断食に慣れている方なら、動物霊や軽い霊障の治療に断食を用いることもできますが、「3食きちんと食べないと餓死する」と思い込んでいる方にいきなり断食を強いてはいけません。体毒の排泄デトックスには断食が最強の治療法ですが、こころや感情に弱いところがあると、霊障はその弱みを突いてきます。最悪の場合、ひどい拒食症になったり意識が戻らなくなったりする危険性がありますので、**霊障治療には断食はお勧めできません**。

②霊障は朝日のパワーが嫌い（早寝早起きがベスト）

◎日の出を拝む

朝日は誰もが知っている霊障が嫌うパワーです。霊障を感じたら、必ず日の出を拝みましょう。

◎丹田・仙骨・会陰穴を温める

早寝早起きをしていると、丹田・仙骨が冷えていても、とりあえず忍び寄ってきた動物霊たちを追い払うことができます（夜更かし&寝坊助していると、動物霊たちは毎夜、雪だるま式に憑依してしまいます）。

仙骨・丹田が冷えると生気も弱まります。

華佗老師直伝の華佗鼎灸は、仙骨と膂下の丹田と会陰穴に使い捨てカイロを貼って温めます。3点を温めることで、本丹田（ちょうど子宮の辺り）を温補できます。

また、仙骨と会陰穴を温めると、督脈・中脈を介して脳幹から脳全体に生気が巡り始めて頭寒足熱を改善します。この華佗鼎灸で仙骨・丹田・会陰穴を温補して、生気力も免疫力も自然治癒力も高めると、動物霊の憑依も霊障

も予防することができます。

③霊障治療には部屋の掃除は必須

◎霊障の住み家をを作らない

霊障治療に**部屋の掃除**は必須です。部屋を片付けて掃除するだけで、軽い霊障は治ってしまいます。

◎自転車やバイク、車に霊障が宿ることもある

バイクや車に「乗る」「運転する」という**動作自体**に霊障が宿っていることもあります。

過去生を見ていると、馬に乗る場面がよく現れます。馬賊だった過去生や騎馬軍団だった過去生での因果応報が現れると「乗る」に霊障が現れる可能性もあります。

◎清潔できちんとした服装は陰気を跳ね返す

清潔できちんとした衣服に朝、ちゃんと着替えることも霊障治療になります。衣服に夜の陰気が留まったままだと、動物霊や霊障はそこに宿ってしまいます。

清潔できちんとした服装の人には、動物霊も霊障も近寄ってきません。波動が高すぎて近寄れないのです。そのまま神社へ参拝できる服装がベストですね。

◎化学薬品と添加物だらけの香水、芳香剤は避ける

お化粧品は、霊障治療には必須ではありませんが髪は整えましょう。ボサボサの髪は動物霊を引き寄せます。

臭覚は脳の第一神経で（視覚は第二神経）最も本能に近い感覚です。その臭覚が鈍感になると、本能的なあらゆる感覚&感性が鈍感になってしまいます。

ふっとそこに何かがいるような感覚

ふっと誰かに見つめられているような感覚

ふっとすぐそこに何か危険が迫っているような感覚

どれも本能的な直感で、霊障病を治していく上でとても重要な感性です。

多くの動物霊が漂っている部屋は、何となく動物臭がしてきます。霊障に取り憑かれた人が近寄ってくると、言葉では表現できないようなとても嫌な臭いがしてきます。

臭覚は本能のスイッチです。本能とは生き残るためのパワーの源です。**化学薬品と添加物だらけの香水や芳香剤は、この本能をシャットアウトしてしまいます。**すると霊障病だけでなく、様々な感染症のターゲットになり命を落とすこととなります。損なわれていた臭覚を取り戻すだけで、動物霊や霊障を祓うこともできます。

④温泉療法（なぜ除霊の効果があるのか）

多くの病は頭熱足寒が根本原因でもあり、丹田—会陰—仙骨の骨盤には特にひどい冷えと水毒があります。当然のことながら腸内フローラにも冷え、水毒、悪血が襲いかかり、悪玉菌が優位となって免疫力と自然治癒力の低下という万病の下地を作ります。

温泉は**この頭熱足寒と冷え**にとってもよく効きます。温泉に浸かると、温まった気血が全身の経穴経絡を気持ちよく巡ります。

皮膚は第二の脳と呼ばれています。温泉には**全身の皮膚を介して、冷え・水毒・悪血を洗い流すデトックス効果**がありますが、温泉に入ると、**脳に溜まっていた水毒や悪血にも浄化作用が働き**、脳機能が回復してきます。

陰陽五行で見ると、温泉は、土・金・火・水から成っています。温泉に入ると、土・金・火・水が和合して、**霊障の“木”を浄化**してくれます。浄化された“木”は、本来の伸びやかな性質を取り戻して、**気血が全身にくまなく巡る力**となってくれます。

これが温泉の除霊効果となります。温泉を選ぶ時に気をつけなければいけないのが塩素消毒です。**源泉掛け流しの天然温泉以外は除霊効果が劣ります。**

スポーツジムような循環式&塩素消毒の風呂だと霊障をもらってくる可能性さえあります。せっかく温泉に行ったのに、なぜか疲れた・・・場合は、霊障病の可能性もあります。

◎温泉に除霊に行く時は吉方を選びましょう

もし凶方なのに行ってしまうと、除霊効果どころか霊障病を更に悪化させてしまうかもしれません。

原則は、

① 3泊4日以上

② 100km以上遠方へ

③ 初日は午後10時までに宿に入る、お風呂も午後10時までに入っておく

④ できるだけ温泉を選ぶ

です。方位学も易学と同じころから中国皇帝学として非常に大切にされてきた科学的学問です。霊障が闊歩していた平安時代の人たちも方位学をとっても大切にしてきました（参考情報 <http://www.btvn.ne.jp/~energy-seitai/direction.pdf>）。

⑤霊能者による除霊（軽度、中度、重度のケース）

軽度の霊障は、霊能者を自称できる方々でしたら、どなたでも祓うことができるでしょう。

中度の霊障になると、少し気をつけなければなりません。霊能者の力を計り知ることはできませんが、最初に会った時の印象、特に心のざわめきのような感覚や何か冷ややかな冷気のような感覚を覚えたら、それはその霊能者さんとの波動がミスマッチしている証ですので、あなたには不向きな霊能者さんでしょう。

重度の霊障と向き合う際には真剣勝負になります。一日に何人も治療することは無理でしょう。少なくとも前日から精進潔斎しての禊が必要になります。

⑥波動量子医学の中に霊障医学がある

霊障医学は自然医学のひとつです。波動量子医学の中に霊障医学があるとも言えます。

霊障の治療は、**祈りと感謝**に行きつきます。

様々な怨念や想念が生み出した霊障は、**慈愛の祈りと「ありがとう」の感謝**で浄化されます。

我欲とエゴ、自利自己中心でいる時は、いくら祈りや感謝を口にしても、その中身はがらんどります。そんな心身魂のがらんどる空虚に、動物霊や霊障たちが宿ってきます。**慈愛に目覚めた祈りだけが、あらゆる霊障を浄化できます**。祈りは霊障治療の根幹を成す療法です。「**祈り**」なくして**霊障治療はない**、と言えます。

6.【奥山医院独自の霊障治療のメソッド】

①尿療法

波動量子的に尿をとらえると、**ひと口飲むだけでも全量**を飲んでも同じように効果を発揮しますし、尿を**皮膚に塗るだけでも**全身に作用させることができます。

尿療法は、万能・簡単・安価な素晴らしい療法ですので、霊障病にも効果が期待できます。

霊障は、**尿療法が大嫌い**です。**霊障治療と予防**にとっても効果的です。

霊障は身体中のあらゆる臓器と感覚器、神経系・循環器系・リンパ系などのシステムを免疫や自律神経に察知されないままの**ステルス状態で冒すことができます**。

霊障は想念と同じ波動量子体でもありますから、察知できるとすれば体外に広がる衛気：オーラに生じる精妙な乱れを感知するしかありません（普通の人には無理！）。

尿は**波動量子的に生体：心身魂の全情報を保持**しています。

当然、尿は霊障が取り憑く前の記憶、取り憑いた時の記憶、取り憑かれ霊障病が悪化していく記憶も持っています。**そのような尿をひと口でも飲尿すれば、リアルタイムに霊障の全ての情報が免疫系と自律神経系、経穴経絡を活性化して防御態勢に入れます**。

また、尿の波動量子情報は**内外の生気力も活性化**するので、新たな霊障を引寄せることを阻止することもできます。霊障されている時の尿は、**とても不味い**です。

（嫌悪感）自分にはない味、

（刺激感）舌を刺すような味、喉に刺さるような味、変に酸っぱい味、嫌な臭さ

などを感じます。動物霊が憑くと、新鮮尿であっても泥臭い臭い、野生臭い臭いが強くなります。

尿療法を行うと、霊障に取り憑かれ支配されていた心身魂に目覚めが起こります。心身魂が霊障されていたことに気づくと、**ただちに生気力や衛気が強化増幅**されます。霊障に対する自然治癒力がパワーアップして霊障を追い出そうとします。自然医学の生活養生で心身の疲れを取り、**食養生をしても尿の不味さが続く時には**、霊障の可能性も考慮に入れましょう。

霊障はひとつだけの霊が憑くこともありますが、動物霊のように多くの霊が憑くこともあります。

尿には霊障している全ての霊が出す波動が入り交ざるので、霊障している全ての霊を見極めることはできませんが、霊障病に最も関わっている霊を尿を介して感じ取ることはできます。

②独自に開発・発展させた「華佗刺絡気功」

引用が長くなるので記載省略。書籍をご覧ください。

③その他

◎本物のガンには**霊障が関わっていることが多い**

霊障が取り憑く際には、霊障を宿さない身体と健康と霊障を近づけない精神の健全さが弱体化することが必要です。仮に魂レベルに前世からのカルマや呪詛があっても、心身が健康であれば霊障が取り憑くことはありません。本物のガンは、やはり**霊障も関わっていることが多い**と思います（進行の早すぎるガンや若年性のガンも増えていますが、霊障病の可能性が高いと考えています）。食と生活の悪さが霊障を引き寄せていることがほとんどですが、まず動物霊などの軽い憑依達が食と生活を乗っ取って**霊障されやすいジャンキーな悪食と悪生活へ落とし込んでいき、ガン成長のための波動エネルギー的な悪循環を増強しているの**のかもしれない。

ガンの中でもいわゆる「**ガンもどき**」の波動は、**身を焦がすような熱を帯びた邪気や永久凍土のツンドラの下に沈んだ凍える水毒のように、目立った波動**であることがよくあります。

派手な波動ですから、目に見える外見的にも堂々たる悪性腫瘍の姿をしています。西洋医学医たちが悪性のガンだ

と診断してしまうのも仕方ありません。

ガンもどきの中に強い悪邪気を感じなければ、それは本物のガンもどきですので、ガンの標準治療を先延ばしにしなが経過を見るのも一手です（もちろん食養生と生活養生をしっかりと続けることが大前提）。

本物のガンを波動量子で診ると、鳥肌の立つような悪邪気の波動を感じる事がしばしばあります。それがまだ早期ガンであっても、悪魔に触れたような悪邪気を発しているガンは、その後の経過もよくありません。

また、霊障に憑依されたガン患者さんたちの特徴は、**妄信性が強い**ことです。自分が選んだガン治療方法を信じ切ることは大切ですが、その一方で自分のガンの消長を俯瞰して見つめる客観性も大切です。

◎生体への異物挿入と気血の波動異常の関係性

特に最近では、動脈の狭窄部位にステントを挿入したり、血管内膜を剥離する手術や血管をバイパスする手術が盛んに行われるようになりました。

東洋医学、特に鍼灸経絡学的には、動脈内への異物挿入や動脈の手術は、**大きな経絡の流れを分断し、損なってしまう危険性**があります。

歯科で一世を風靡したインプラントを受けた後に、様々な重度の不定愁訴に見舞われて、結局、インプラントを除去すると不定愁訴が全て平癒した患者さんをたくさん診てきました。

わずかな金属異物でも上顎下顎を走る経絡に慢性的な悪影響を及ぼして、全身に万病の種を蒔いてしまったのです。同様のことが**ステント挿入術**にも危惧されます。心臓と脳ですから、督脈と任脈の乱れやアンバランスから、生体の軸とも言える**中脈を損なう危険性**さえあります。

波動量子診で診ると、ステントやインプラントといった異物が、**それ自体が持つ固有の波動によって挿入部周囲の組織を変調させている**のが感じ取れます。

挿入部の局所的な変調だけでなく、**経絡を介して手の筋肉、足の末梢神経のような予期せぬ遠い組織の波動を変容させたり、全身を巡る気血の波動に異常を起こしたりしている**のが分かることもあります。

目下のところ、このような異物挿入による波動の乱れを外部から完治させてしまうことはできません。

なお、このような異物挿入による波動の乱れを動物霊や霊障たちが放っておくわけがありません。身体に現れた波動の乱れに動物霊たちが集まってきますし、大本の異物挿入部に霊障が宿ってきます。

◎霊障と直接繋がる波動量子治療（その効果と危険性）

波動的に繋がるだけで多くの霊障は祓われてしまいましたが、波動量子治療は決して攻撃型の治療法ではありません。波動的に繋がって**霊障自身の波動の乱れや低下を整えてあげる和の療法**です。

波動量子診を行う施術者は、善悪や優劣などのジャッジは禁物です。

施術者の意識が少しでもジャッジに向かうと、患者さんの波動量子との繋がり：シンクロが弱まります。

もし霊障がその患者さんに取り憑いていれば、そのシンクロを乗っ取って偽りのイメージを施術者に与えてきます。強力な霊障ならば、その偽りのシンクロを介して、霊障された患者さんと繋がってイメージを診ている施術者にも霊障してしまうことがあります。

霊障の波動とシンクロして、そのエネルギーに直接接触れることができるので、霊障の治療効果はとても高い療法です。しかし同時に霊障を怒らせたり、逆に患者さんの親族家族が憑依されたり、施術者が霊障に乗り移られたりする危険性もあります。

安易に波動量子治療に頼らず、まずは食養生や生活養生から始めることをお勧めしているのは、このような万が一を懸念しているからです。

7.【霊障予防】

①自然医学による「排泄モード」が重要（霊障予防の基本）

自然医学で最も重要なものは**食養生**です。霊障予防も**食養生**から始まります。

1日1食の少食療法や週末断食療法を続けていると、免疫力・自然治癒力・蘇生力が高まってきて動物霊や霊障を寄せ付けない高い波動になります。

少食や断食療法は、様々な体毒や食毒を排泄してくれますが、同時に動物霊や霊障が宿りやすい腸内環境もクリーンアップしてくれます。

自然医学では、この**排泄モード**を大切にしています。霊障の予防も、この排泄モードを大切にすることから始めましょう。

排泄モードをできるだけ長く、強くしたい。そのためには・・・という考え方をすると、自分にできることが具体的に見えてきます。

①まず消化吸収モードの時間を短くしましょう。

②できるだけ農薬や抗生物質などの化学薬品と添加物、遺伝子操作のない身体が喜ぶ食材を食べましょう。

③電子レンジなどの電磁波調理器具を避けて、手作りのスローフードを摂りましょう。

この3点は自然医学の力を高めてくれるだけでなく、霊障予防にも大いに役立ちます。

②朝の清気パワーで祓いましょう

早寝早起きは霊障予防に必須の生活習慣です。

何と言っても早朝の浄化された清気と眩しい朝日を浴びると、どんな動物霊や霊障の邪力でも弱まってしまいます。

③五感を大切にしましょう

第一脳神経である嗅覚は古脳を代表するもので**本能と直結**しています。身体に入れて良いものと悪いものがあるのがわかる本能です。近づいてもよい場所と早く逃げ出さなければ危ない場所を教えてくれる本能です。肌のあう人や波動がシンクロする人を見分けられるのもこの本能です。

ところで、香水や芳香剤やタバコの毒香が年々とてもひどくなっています。

最近、老若男女ともにキレやすい人、ワガママな人、自己中な人が急増していますが、**香毒は、食毒以上に自律神経やホルモン中枢を直撃する恐ろしい化学毒**です。老若男女の狂気の一因が、この香毒にあることは間違いありません（古脳には生殖本能中枢があります。香毒に冒されると、生殖本能だけでなく、**理性までもが狂います**ので）。なお、動物霊や霊障は**嗅覚からも**入ってきます。嗅覚が正常の人なら、動物霊が近寄ってくれば何か嫌な臭いや動物臭さに気づけます。霊障が待ち構えているようなところでは急にクシャミが連発したり、涙が出てきたり、鼻の奥がツーンとしたりして、何か変だなと意識させてくれます。異変に気付いたり意識するだけで、心身を護る生体エネルギー：衛気・オーラが瞬時に強化されて霊障を防いでくれます。

香毒に冒された嗅覚は免疫力や防衛力が衰えているので、簡単に動物霊や霊障に古脳への侵入を許してしまいます。霊障病を予防するには、**まず嗅覚を取り戻さなくてはなりません**。

「天然素材100%だから大丈夫」にだまされないようにしましょう。天然素材100%を謳いながらも、pH調節材や軟化剤、安定剤などの形で様々な化学合成物質が加えられていることがあります。

嗅覚回復の第一歩は**香り断ち**です。食毒を排泄するために断食するのと同じ要領です。季節季節の自然の香りに気づけるようになるには、少なくとも半年から1年は必要でしょう。

香りは**味覚とも深く関係**しています。1日1色の少食にしたり週末断食を習慣化すれば、より早く嗅覚も回復してきます。

④耳をいたわりましょう

◎霊障は耳からも入ってくる

聴覚も霊障の宿になります。

人の口から出た悪口に乗って霊障が耳から入ってきます。

自分の口から出た悪口にも霊障が乗って耳から入ってきます。

霊障は**人への陰口や中傷**が大好きです。密に引き寄せられる蟻のように、霊障たちが悪口に集まってきます。

ついてない、不幸だ、ダメだ・・・神仏や運命を呪う言葉には、強い霊障が憑依してきます。

耳から入ってきた霊障は、聴覚中枢を支配して**幻聴や耳鳴り**をもたらします。

悪意のある嘘や詐欺まがいの虚言には、霊障だけでなく動物霊も憑依してきます。嘘や虚言を言った当人にはもちろん動物霊や霊障が憑依しますが、**嘘や虚言を聞いてしまった人の耳にも**これらは取り憑いてしまいます。

この時、「いつものことね」「かわいそうに」と感情をスルーしてしまえば、動物霊や霊障は鼓膜より内部へは入れません。免疫力と自然治癒力で耳垢と化して排泄されます。

その時、**怒りや憎しみで感情を荒げてしまうと**、動物霊や霊障は鼓膜を越えて聴神経に憑依してしまいます。そして怒りや憎しみを憎悪させる幻聴を聞かせ続けてきます。怒りや憎しみの幻聴は肝と腎を傷めます。肝心要が霊障されると、もう心身はボロボロになり万病に冒されます。

◎耳から入る動物霊について

動物霊が聴覚に憑依すると、**自分の都合の悪いことは聞こえないで、自分への悪口はよく聞こえる人**になってしまふことがあります。表情がかわいいうちは歳のせいですが、**フツとした折に見せる表情が狐や狸**のような時は要注意です。

耳から入る霊障を治すには、**まず悪口を言うことと悪口を聞くことをやめましょう**。誰かが人の悪口を言っているのが聞こえてきたら、意識を別のことへと集中しましょう。簡単な対処法として私は、お薬師さんの真言「**おんころころ せんだり まとうぎそわか**」を唱え続けます。神仏への悪口や自分への悪口を言ってしまった時にも、このお薬師さんの真言は波動の浄化作用が強力なのでとても役立ちます。

聴覚中枢まで入り込んできた霊障には、**感謝の言葉と褒め言葉**がとてもよく効きます。これは言霊にして**実際に口に出して言います**。口先だけの感謝の言葉ではダメです。心ここに非ずな褒め言葉では効きません。

◎断食にも注意が必要です

1日だけのプチ断食なら心配ありませんが、3日以上の本格的な断食の際には注意が必要です。1日1食の少食療法なら、霊障病の悪化の心配はありませんし、断食と同程度の治療効果があります。霊障病の治療目的の場合は、肉食は避けましょう。

◎聴覚を乗っ取られないようにしましょう

聴覚に憑依した動物霊や霊障を祓う場合、厄介なのは**動物霊や霊障が耳を塞がせてしまうことです**。耳鳴りやめまい、吐き気、動悸などを起こして、感謝や褒め言葉が聴覚中枢に上がってくるのを妨げます。聞きたいのに聞けない状態にして、占領した聴覚中枢を護ろうとします。

そんな時には、**聴覚以外の感覚**を使います。

抱きしめてもらったり、手を握ってもらいましょう。足や背中をさすってもらったり、下丹田に手を置いてもらったりしましょう。一人暮らしの場合は、丹田を温めたり、足湯をしたりしましょう。温かい白湯やショウガ湯を飲むのもよいですよ。

電車内や歩きながら音楽を聴いている人がとても増えました。音量が大きいほど聴覚は疲労するので、動物霊や霊障の絶好のターゲットになります。

これまで述べてきたような聴覚への霊障病の兆候を感じた時には、まずは1週間、音楽を聴くのを止めて聴覚を休ませてあげましょう。自然と鼻歌が出てくるのは構いませんが、お気に入りの曲が幻聴してくるようなら聴覚への霊障ですので、本格的な霊障治療が必要になります。

8. 【霊障 Q&A】

Q1) 霊障の治療は何回くらい通わなければならないのですか？

A1) これはケースバイケースです。霊障の程度によります。最短週1回でしょう。良くなってくれば2週間に1回、メンテナンスに入ると月1回です。3回やってみて変化がなければ、光の前世療法をお勧めしています。

Q2) 除霊後にまた霊障されて再発しませんか？

A2) 自然医学の食養生と生活養生をしっかりしていれば霊障は防げます。

霊障の治療にも予防にも 華佗刺絡気功を使います。この治療を続けていると、免疫力&自然治癒力&生命力がどんどん増強されて霊障に冒されにくくなります。

もともとの体質：女性の場合は特に先祖からの「血」が霊障を引き寄せやすくしていることもあります（魔女の血、霊能者の血、オシラサマの血 などなど）。

またチベット医学の言うように、先祖霊や悪霊、カルマが霊障を呼び込むこともあります。このような霊障体質の方は、きちんと衛気のメンテナンスを続けられた方がよいでしょう。

Q3) 精神科のお薬を飲んでいますが、霊障治療はできますか？

A3) 精神科の薬を飲んでいらっしゃる方々の頭を脳気功で診ると、薬毒による冷え・水毒・悪血・邪気気滞などでとてもひどい状態です。脳の表面が薬毒でべっとり覆われているので内部が全く見えないこともよくあります。

霊障は気を感じて波動で診ます。薬毒はこの霊障を感じ取る気を跳ね返してしまいます。それだけ霊障診断も難しくなります。診断が的確にできないと治療は困難です。

精神科の薬を服用中の場合は、薬毒によるリバウンドの精神症状と霊障症状の鑑別も難しくなります。

(補足①) 以下小栗医師の書籍より

◆ネガティブな思いがマイナスエネルギーを引き寄せる

霊が見える見えないということではなく霊に対して敏感な、いわば「**憑依体質**」という人がいる。その憑依体質の人が**マイナス思考に陥ると**霊が憑きやすい。そういう人は憑依霊というマイナスのエネルギーと同調しやすい。つまり、いつもくよくよ悩んだり、ネガティブな考え方をしたりするタイプで憑依体質だった場合、憑依霊を引き寄せやすいことになる。同時に、怒りや憎しみ、嫉妬、自殺願望といったマイナスの感情も引き起こしやすくなる。なお、霊を浄化させても、**本人がマイナス思考でいる限り**、またいくらでも憑依されてしまう。

◆「霊の浄化」セラピーを精神医療の一環として取り入れる際の注意点

①浄化は受け身の施術

憑依霊が原因で精神的、肉体的なダメージを受けていたとなると、患者は病を自分の力で克服したという気持ちが芽生えない。困難な状況を自力で克服した経験は人間の精神を逞しくするが、そういう**主体性を奪ってしまうおそれ**がある。

②浄化は依存性が発生しやすい

再び体調がおかしくなっても、浄化を受けさえすれば良くなるという**依存する気持ち**が患者に起こる可能性は低い。

③浄化は特別な霊能力あっての方法。ゆえにそれを駆使する人の人間性が重要

*浄化は心の病を100%治す治療法ではないし、本人が良くなりたくて強く思わない限り、憑依霊はいつまでも憑いてくるし、その苦しみからも中々解放されない。浄化を行う際は、**浄化が万能薬ではないことを患者によくよく話しておく**ことが重要である。

*要は**本人の心の持ちようが一番大事**であり、ネガティブな思考回路から脱却し、ポジティブな考え方へといかに変換できるかが重要なのである。霊の浄化は**それに気づくきっかけ**にすぎない。

◆EMDR（眼球を左右に動かしてトラウマ解消を解消する技術）を応用して、患者に目を閉じてもらい、患者の体の一部をタッピングすると、別人格を呼び出しやすくなる。

◆瞑想の仕方を訓練した人が行うのならいいんだけど、素人が中途半端に瞑想を行うと、成仏できなかった霊やマイナスのエネルギーを引き寄せてしまう。
また、瞑想だけでなく、なんとなくボーッとして何も考えていない時もマイナスのエネルギーを引き寄せやすい。

◆必要以上に苦しむ人の「心のメカニズム」

◎内なる多重人格が心の病を引き起こす

「**多重人格**」は、解離した別人格が表に出てくる。それに対して「**内在性解離**」は、別人格が潜在意識化に留まり表に出てこないで、「**内なる多重人格**」とも言えるだろう。

この「**内在性解離**」こそが、うつ病をはじめ、様々な心の不調の原因になっているのではないかと私はそう考えている。実際にうつ病や依存症、適応障害、パニック障害などの多重人格でない患者を診断すると、多くの場合にこの**内在性解離**が認められた。

内在性解離があり、内なる別人格が存在すると、本来の基本人格がしっかり自立することができない。そのため**心の軸が揺らぎやすく**、軽度のストレスや衝撃でも精神的なダメージが大きくなる。

なお、この別人格には、**外から憑いてくる憑依霊**と、**患者の内部に生まれた別人格**との両方がいる。その似て非なる二つをしっかりと区別しなければならない。

憑依霊のほうは患者本人とはまったく無関係の他人の霊である。だから、本人が体験したトラウマとなるような辛い記憶は持っていない。

一方、患者から解離した別人格の方は、患者が体験した辛いトラウマの記憶を持っている。**その時の感情もそのまま忘れることなく引きずっている**。そこがポイントである。

現れた人格に患者と関係のある出来事、たとえば幼いころどんな家に住んでいたかとか、両親の性格や名前などを聞いてみる。それに答えられなかったり、事実と違うことを言うようなら、それは憑依霊である可能性が高い。

◎マイナスの感情をしつこく思い出す人に多い

内在性解離があると、**ストレスによる苦痛や葛藤が心の奥底に重く残ってしまう**。それが重要な特徴である。

通常であれば時間の経過とともに、過去に受けた苦痛やストレスも自然と和らぐはずだ。だが、内在性解離のある人にはそれがなく、**何年経過してもその出来事を思い出すたびに苦痛が生々しく蘇ってくる**。なぜなら「別人格が背負った感情は流れない」からである。悲しみや寂しさ、怒りといった辛い感情が消化されずに、当時のままで抱えてしまっているわけだ。

分かりやすい例で言うと、摂食障害やリストカット、薬物依存症も内なる別人格が溜め込んだつらい感情が溢れてしまった結果、引き起こされる症状の可能性があると私は見ている。

◎ごく普通の人にも存在する「内なる別人格」

「**内在性解離**」は、決して特別は精神疾患ではない。実はごく普通に生活している人にも存在していることがある。

一見、何の問題も抱えていないように見える人でも、内在性解離が多くあると**心理的、環境的ストレスに極端に弱くなる**。内側に別人格を何人も抱えているのだから、自分がしっかり定まらない。その分、どうしても心の軸が脆くなり折れ易いのだ。それが倦怠感や意欲減退、頭痛など心身両面に様々な症状を引き起こす原因にもなる。健康な人でも、もし**自分は打たれ弱い人間だ**という**自覚がある**なら、内在性解離を疑ってみるとよい。

会社に行くのが嫌で入社拒否したくなるとか、失敗したり叱られたりするとものすごく落ち込むとか、ストレスをドカ食いで発散させている、何もする気になれない、他人の目が気になる・・・という人も内在性解離の可能性が高いと思う。

ただ、内在性解離があっても、それがすぐ心の病の発症につながるわけではない。それはアレルギー体質と同じで、**限界を超えるほどの強いストレスがかかったときに初めて発症する**と考えられるからだ。解離した別人格があっても、強いストレスさえかからなければ、不都合なく生活していけるのだ。

ここで質問を一つ、皆さんに投げかけてみたい。

あなたは「**自問自答**」しますか？

さて、この質問にあなたは**どう答える**だろうか。実は、この質問は私が内在性解離の診断に用いる問診票の項目である。

一般的に普通の人**が自問自答**する場合は、あくまでも自分で問いかけ、自分で答える。ところが、**内在性解離の人の自問自答とは、別の人格に相談して答えをもらう**ことなのである。

さらに、**脳内会議をする**というの**も、内在性解離のある人の特徴**である。「**脳内会議をしますか？**」という質問

に対して、内在性解離のある人は、「普通はしないのですか？」と逆に質問してくることも稀ではない。

◎「内なる多重人格」の自己判断チェックシート

- 1.記憶があいまいになる
- 2.記憶が抜ける
- 3.その場と関係のない感情、例えばイライラや不安などが湧いてくる
- 4.憂鬱な気分である
- 5.死にたいと思うことがある
- 6.漠然とした不安感がある
- 7.イライラ感がある
- 8.自分を客観視することがある
- 9.怒った時には、その場の怒りだけでなく、過去の怒りまで同時に出てくる
- 10.悲しい時には、その場の悲しみだけではなく、過去の悲しみまで同時に出てくる
- 11.自問自答をしている
- 12.脳内会議をしている
- 13.決断が容易にはできない
- 14.自分の中に別の自分がいる感じがする
- 15.自分に話しかける声がする
- 16.過去にとらわれやすい
- 17.状況によってモードを切り替える
- 18.苦しみ悲しみは時間が癒すという感覚がない
- 19.周りの世界が自分のいる世界とは距離がある感じがする（リアルに感じない）
- 20.自分というもの（性格）がよく分からない

これらの項目の回答を、常に=3点、しばしば=2点、たまに=1点、ない=0点の四段階で評価する。
内在性解離を起こしている場合は、3点、2点の所にずらりとチェックが並ぶことになる。合計点数が30点以上になる人は、内在性解離の疑いが非常に強いと言える。

（補足②）以下橋本医師の書籍より

◆霊障治療

- ①霊障治療がうまくいっても再発するケースがあり、住居あるいはその地域に居る浮遊霊を対処する必要があること
- ②憑依には妖怪など亡くなった人の霊以外の存在があること
- ③憑依体質と言われる霊を引き寄せやすい体質をどのようにすれば良いか。
- ④供養と意識体を成仏させることの類似点と供養方法について

◆【霊障改善法】

<一般的な方法>

①九字を切る

まず手をじゃんけんのチョキの形にし、人差指と中指を閉じる。そして、その指先で横に空を切るように「臨」と唱える。次は縦に空を切り「兵」と唱える。同じようにして「闘・者・階・陣・烈・在・前」と、碁盤の目になるよう、横縦と順番に空を切り、気迫を込めて素早く呪文を唱えていく。

この九字を切ることで、悪魔などの邪悪なものから守護し、悪なるものを切断するという方法です。

②護符

護符は中国に起源を發する霊符の一種で、和紙に守護をしてくれる力の宿った文字や図形が描かれているものです。家に貼ったり、財布に入れておいたり、身につけて持ち歩いたりして良くないものから自分を守る為に使われます。

③盛り塩

塩を三角錐に盛り、玄関先や家の中に置いて主に縁担ぎ、厄除け、魔除けの意味を持つとされているものです。盛り塩は家の中を邪気から守り、マイナスエネルギーが身体の中に入り込むことがなくなることで幸運をもたらしてくれると言われてしています。

④お経

お経を読むことで自分の煩惱を静め、心がヒーリングされます。

以上挙げたのは一般的に行われている、悪なるものから自分の身を守るための方法の一部です。

◆除霊と霊障ヒーリング（浄霊）

<霊障病>

除霊とは憑依した不成仏霊（＝亡くなった人の意識体）を払い除けることです。除霊の場合、**一時的に**状態は改善するので、つい安心してしまいますが、時間が経つと浮遊しているゴーストがまた憑依してきます。一方、**霊障ヒーリング**とは彷徨える不成仏霊を癒し、霊界と言われる本来の行くべき所へ送ることで、一度、霊障ヒーリングすると**再度憑依されることはほとんどなく**、根本的な霊障改善法と言えます。

◆不成仏霊で悩む人が住んでいる近所を調べてみると、**お墓があるケースは多い**のです。不成仏霊はそこから拡散して家にも入ってくるので、このような場合は不成仏霊が入ってくる方向に**鏡やシーサーを置いて**ブロックします。もちろん、家の中の不成仏霊もヒーリングする必要があります。

◆誰かが住んでいる時は良かったとしても**空き家になると**不成仏霊が住み着き、その不成仏霊の影響を受けてしまうことがあります。自分の家の中だけでなく、周囲の環境もきちんとチェックしてプロテクトする必要があります。

◆書物から受けるマイナスエネルギー

本はその内容にマイナスな気エネルギーが憑いていることがあります。そんな場合は大抵、その著者にもマイナスなエネルギーが入り込んでいます。

困ったことに、スピリチュアルや気に関するもの、宗教に関する本に、こうしたマイナスの気エネルギーが意外と多いのです。

書物を読むのは時間が長くかかるため、そんな書物を読んでいるとマイナスの気エネルギーをまともに受けてしまいます。その対処法は、**本からマイナスの気エネルギーを引っ張り出して捨てるか、著者から本に繋がっているエネルギーを切る**ことです。そうしたら、本を読んでも、マイナスのエネルギーを受けなくなります。そのマイナスのエネルギーが原因で霊障になることもあります。

◆【不成仏霊から身を守る】

不成仏霊（＝亡くなった人の意識体）以外にも、**生霊、動物霊、妖怪、悪魔、崇り神、宇宙霊、悪霊、因縁霊**など目に見えない意識体の憑依があり、それぞれで中身も対処法も違います。

ここでは、**不成仏霊の対策についてのみ**紹介します。

(1) アイヌ帯

渦巻き文様のアイヌの図柄は魔除けのため。帯なので手軽に腰などに巻いて身につけられ、価格も数千円と手ごろです。憑依されやすい方は、これを身につけるだけで大きく軽減されます。ただ万能ではないので、以下の注意が必要です。

①永久に効果があるものではない

効果が永久に続くと思いき、メンテナンスをしないまましていると、何ヶ月可後には効果が無くなり、憑依を受けてしまいます。物理的なメンテナンスとしては、**1ヶ月に一度くらいは手洗いと朝日に当てる**ことが必要です。また、気エネルギー的なメンテナンスとしては、日数が経つとアイヌ帯にも邪気（邪気で一番強いのが人から受ける意識、感情）が付くようになってしまうので、**それを払う必要があります**。

②アイヌの帯をしていても不成仏霊がやってくる場合があります

プロテクトしているので、身体の中まで入らないのですが、**オーラの外にはピタッと憑きます**。それだけでも疲労を感じます。オーラの外に居る不成仏霊をクリアにしないまま帯を外すと憑依されかねません。

不成仏霊からプロテクトしてくれるアイテムも、きちんとメンテナンスをしないと効果が減弱するので気をつけましょう。

(2) タンカレージン

ジンのブランドの「タンカレー」。体に入った**不成仏霊を出す力**、つまり、霊障ヒーリング効果があります。そのもそのはず。タンカレーの生みの親は元、聖職者。霊水を超えるものを作りたいと思ったことがきっかけだったそうです。飲み方は、キャップ一杯に原液を入れてそのまま飲みます。アルコール度数が高いので、かなりきついですが、**薄めないで**飲む方が効果があります。飲むとヒーリングされて、心が軽くなり、軽度の場合には即効性があります。

(3) メタルテープ

不成仏霊は夜になると活発になり、明るい昼間は活動が鈍ります。明るいところは苦手なのです。これを応用すると、**輝くもので**不成仏霊を避けることができます。

色々検討した中で値段もお手軽なのが、幅が**5 c m程のキラキラしたメタルテープ**です。これを身体に巻いたり、不成仏霊が入ってくる方向の壁に並べたりすると防御できます。

例えば、不成仏霊が入ってくる壁側に、幅5 c m、長さ50 c mほどのメタルテープを50 c m間隔で貼り付けます（しかし、このように外に向かってブロックしても外出すると憑いてしまうことも多いので、家の周辺まで浄

霊が必要な場合もあります。その場合、家の周辺、地域の浄霊は、その地図をコピーして浄霊エネルギーを入れたホログラムシートの上に乗せます）。

(4) 沖縄シーサー

これは飾りではなくて魔除けのために置かれています。ただし、どんなシーサーでも良いわけではありません。特に笑っているシーサーは全く効果がありません。睨んでいても効果のあるものはごく一部です。

(5) 漢方薬

桂枝加竜骨牡蠣湯、半夏厚朴湯など、その都度、憑依している霊障に応じて漢方薬を選んで、複数を組み合わせます。

(6) 護符

霊障をプロテクトする強力なグッズは護符です。ただし護符は何でも良いわけではなく、**適合するものを選んで**使います。また、護符は原図を**そのままコピーしても効力はなく**、気エネルギーを入れて作る必要があります。そうして選んで作った護符を身体の前後や家の天井などに付けます。

(7) 鏡

不成仏霊が家の中に入ってくるのを防御するため、**ゴーストが入ってくる方角に鏡を向けて置いておくだけでも**プロテクト効果があります。

(補足③) チベット医学

チベット医学は、中国医学、アーユルヴェーダ、ユナニ医学（イスラム伝統医学）とともに東洋四大医学に数えられている。チベット仏教に根差した精神医学であり、8世紀に医聖ユトク・ユンテン・ゴンポによって編纂された「四部医典」を经典とし、その名の通り4つの部門から成り立っている。

参考までに、病は、それが現れる身体の部位、タイプ、環境的要因などによって次の四つに分類されています。一分類につき101の病があり、総計404の病が存在します。

①過去生のカルマ（行為）に起因する101の病

②今生のカルマに起因する101の病（人生の前半に行ったカルマの結果が、人生の後半に現れて病になる場合）

③鬼神による101の病（外面的な治療では無理で、崇めている鬼神を払いさえすれば、病は治ります）

④表面的な101の病（投薬やそれに付随する治療を行わなくても、規則的正しい生活を送り、正しい食生活を行うだけで治ります）

(補足④)

◆魔が嫌うもの・・・岩笛の音（青島等）、太鼓の音、弓の音

◆映像で見せるのは「霊」→危ない。最後、登り詰めた所で梯子を外される。

「霊界」は、声か文字で伝えてくる。

何となく分かるのは「神」（石だけには気をつけないといけない）。

偶然が2回続いた時は、霊界の示指。

(参考書籍・サイト)

①「マイナスエネルギーを浄化する方法」小栗康平著（2010年）

②「新装版 医師が語る霊障」橋本和哉著（2017年）

③「霊障医学」奥山輝実著（2018年）

④「新装版 霊的治療の解明」ハリー・エドワーズ著（2014年）

⑤「チベット医学 身体のとらえ方と診断・治療」イエシエー ドウンデン 著（2001年）

⑥「チベット医学の神髄」ラルク・クインラン・フォード著（2009年）

⑦「日本 祟り・呪い地図」怪奇伝説探求倶楽部（2012年）

・奥山氏ブログ <http://www.okuyama.or.jp/pg20.html>

・奥山氏 twitter https://twitter.com/okuyamaclinic?ref_src=twsrc%5Egoogle%7Ctwcamp%5Eserp%7Ctwgr%5Eauthor